

## 研究拠点形成事業 平成27年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 (※)  
(※ 該当しない交流形態を削除してください。)

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関:	早稲田大学
(カンボジア) 拠点機関:	プノンペン王立芸術大学
(ベトナム) 拠点機関:	フエ大学
(ラオス) 拠点機関:	ラオス国立大学
(タイ) 拠点機関:	シラパコーン大学
(ミャンマー) 拠点機関:	マンダレー工科大学

### 2. 研究交流課題名

(和文): メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成

(交流分野: 文化財科学)

(英文): Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries

(交流分野: Heritage Science)

研究交流課題に係るホームページ: <http://mekong.lah-waseda.jp>

### 3. 採用期間

平成25年4月1日 ~ 平成28年3月31日

(3年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関: 早稲田大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 早稲田大学・総長・鎌田薫

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 早稲田大学理工学術院・准教授・小岩正樹

協力機関: 東京大学、奈良文化財研究所、東京文化財研究所

事務組織: 早稲田大学国際部国際課

#### 相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名: カンボジア

拠点機関: (英文) Royal University of Fine Art

(和文) プノンペン王立芸術大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Faculty of Architecture and Urbanism ・ Dean (Professor) ・ CHHING Chhommony

協力機関：（英文） APSARA Authority (Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)

（和文） アプサラ機構

（英文） Norton University

（和文） ノートン大学

（英文） Ministry of Culture and Fine Arts

（和文） 文化芸術省

（２） 国名：ベトナム

拠点機関：（英文） Hue University

（和文） フエ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Department of Architecture, Hue University of Science ・ Lecturer ・ NGUYEN Tu Nhu

協力機関：（英文） Hue Monuments Conservation Center

（和文） フエ遺跡保存センター

（３） 国名：ラオス

拠点機関：（英文） National University of Laos

（和文） ラオス国立大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Faculty of Architecture ・ Associate Professor ・ CHITHPANYA Soukanh

（４） 国名：タイ

拠点機関：（英文） Silpakorn University

（和文） シラパコーン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Faculty of Archaeology ・ Associate Professor ・ SURAPOL Natapintu

協力機関：（英文） Ubon Ratchathani University

（和文） ウボン・ラチャタニ大学

（英文） Chulalongkorn University

（和文） チュラロンコン大学

（英文） Ministry of Culture

（和文） 文化省

（５） 国名：ミャンマー

拠点機関：（英文） Mandalay Technological University

(和文) マンダレー工科大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)・Su Su

協力機関 : (英文) Yangon University

(和文) ヤンゴン大学

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコ世界遺産には現在約 900 件のサイトが記載されている。185 ヶ国にのぼる条約締結国数からも、最も成功した世界条約の一つといわれ、登録を目指す動きは加熱の一方で、アジア・アフリカ等の途上国や新しい考え方による遺産の記載は増加が予想されている。記載実現のためには、その固有の価値とともに、顕著な普遍的価値の証明や保護体制の構築などが必要であり、また記載を目指す運動自体が、必然的に地球的拮抗りと人類史的な長期的視点からの遺産と地域の結びつきを見つめ直すきっかけとなる。記載後も遺産の保存活用のための人材育成が必要であり、多角的な国際協力体制の実現が求められている。環境・災害・食糧・資源・格差・紛争等の 21 世紀的世界の危機の深刻化の中で、遺産研究が地域や国の歴史文化の理解にとって不可欠であり、その保存・再生が疲弊した社会の復興の礎となり、人々の精神的一体性の源泉である公共空間回復に寄与すること、そして保護のための国際協調活動が、国際交流と平和構築に大きな役割を果たすことの期待がその背景にある。申請者らはこれまでにカンボジアやベトナムを中心として調査研究・保存・修復と、災害から地域や文化遺産を救済し、復興させることにより、高い評価を得た活動実績がある。これらの実績を基礎として、メコン川流域の諸国においてその地域的背景のもとに文化遺産の保存活用学を創成することを目標とする。同地域には、歴史・地理的背景を共有する多くの文化遺産保存事業サイト、そして将来的に世界遺産リスト申請の可能性があるサイトやそれと同等の歴史的価値を有するサイトと密接かつ多角的な協力のもとに連携した本拠点を中心に国際的な教育研究のネットワークを構築し、高度な専門性と豊かな構想力を持ち、文化遺産の保存を核とした参加・持続型社会の構築を担う人材の育成を行おうとするものである。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 25 年度は、各国の中心的課題である文化遺産の保存活用に関する現場の事前調査及び当該国コーディネーターとの共同研究や協議により、メコン川流域の各々の文化遺産が直面する基礎的問題を明らかにし、それらの成果を基に、国際ワークショップを東京・早稲田大学にて行った。また、共通の課題を解決するための協力体制を、相手国 5 カ国（カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー）と構築した。

メコン流域における全体的な課題・問題点を各国の参加研究者のテーマを通して検討した前年度に対し、平成 26 年度は、カンボジア（アンコール遺跡とサンボー・プレイ・クック遺跡）とラオス（ワット・プー遺跡）の現状や背景の異なる 3 つの文化遺産の事例を選択し、セミナーを 3 回開催した。これにより、個別の地理的・文化的背景を踏まえつつ、メ

メコン川流域共通の文化的背景を生かした文化遺産の保存活用手法の検討を国際的な枠組で行い、本プロジェクト参加国のみならずフランス極東学院等の他機関とのネットワーク構築の強化にも繋がったといえる。同時に、各ワークショップ・セミナーで、若手研究者の参加を積極的に受け入れることで、実践的な調査・研究・成果発表の場の提供を行うことができた。

## 7. 平成27年度研究交流目標

### <研究協力体制の構築>

文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題に対する日本と各国拠点機関の二国間協力を基礎として、メコン川流域全体に共通して取り組むべき研究協力体制を同時に構築する。平成27年度は、初年度より関係協力体制を強めてきたカンボジアとの体制をより強化するとともに、同国内で2回のセミナーを開催することで、参加国相互の研究協力体制のさらなるネットワーク構築・強化・発展を行うことを目指す。

### <学術的観点>

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。それを学術的に明らかにするとともに、特に保存と活用の関係について、共通する考え方や手法について議論する中で、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築に向けて、相互協力の方向を集約する。特に、初年度より継続的にセミナーを開催してきたカンボジアでの2回のセミナーでは、古代から近代の文化遺産と現代の開発の接点となっているシェムリアップを事例に、メコン川流域共通の文化的背景と地域固有の文化的背景の比較を通じた学術交流と、その成果に基づいた文化遺産の保存活用の可能性を明らかにすることを目指す。一方で、「メコン川」の概念を最上流域の中国南部まで広げることで、その文化的広がりと重要性を明らかにし、初年度に検討した全体的問題点・課題点をさらに深化・発展させて検討することを目指す。

### <若手研究者育成>

研究交流に若手研究者の参加を積極的に推進し、調査現場やセミナー等での議論、さらにフォーラム誌の発行企画、及びそこへの投稿を通して、彼らの育成をはかる。平成27年度は、カンボジアで、参加国の学術機関の研究者を中心に、保存修復の現場技術者、さらに行政機関の文化遺産担当者、民間の開発事業担当者まで、多方面から文化遺産の保存活用に携わる若手人材の参加を促すことで、文化遺産の保存活用学の形成を通じた人的ネットワーク形成と多角的視点の養成、そして実践的な学術研究活動発表の場の提供を行うことを目指す。

### <その他（社会貢献や独自の目的等）>

平成27年度も前年度までの目標を継続し、セミナー及びフォーラム誌の発行を中核として、各国の固有性と地域の共通性の課題に、各々の社会に意識を高めることを目標とする。特に、各セミナー成果のオンライン公開をはじめとして、本事業の内容を広く社会一般に公開することで、文化遺産の現状、課題、及びその可能性を認知してもらえらる機会を設ける。

## 8. 平成27年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成 (英文) Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授 (英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (カンボジア) CHHING Chhommony・Faculty of Architecture and Urbanism, Royal University of Fine Art・Dean (ベトナム) NGUYEN Tu Nhu・Department of Architecture, Hue University of Science・Lecturer (ラオス) CHITHPANYA Soukanh・Faculty of Architecture, National University of Laos・Associate Professor (タイ) SURAPOL Natapintu・Faculty of Archaeology, Silpakorn University・Associate Professor (ミャンマー) Su Su, Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)				
参加者数	日本側参加者数	10名			
	(カンボジア) 側参加者数	5名			
	(ベトナム) 側参加者数	3名			
	(ラオス) 側参加者数	2名			
	(タイ) 側参加者数	3名			
	(ミャンマー) 側参加者数	2名			
27年度の 研究交流活動 計画	日本側コーディネーターが、継続して各国の中心的課題である文化遺産の現場を、当該国コーディネーターと共同で調査し、各々の問題点を明らかにする。また、カンボジア・シェムリアップでのセミナーに向け、より具体的な現場調査と研究を行い、文化遺産の開発の調和手法及び防災対策の検討をセミナーと連携して行うとともに、急速に開発が進むアジアの都市における文化遺産への展開の可能性と問題点を明らかにする。また、メコン川の最上流域までも含めた包括的なメコン川流域の文化遺産保存活用を明らかにする。				
27年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」の研究課題の各国個別の具体的な課題を明示し、その成果から、カンボジアにおいてワークショップを開催し、共通の課題を解決するための協力体制のさらなる強化と、文化遺産保存活用学形成へ向けた実線の枠組みの構築の実現が期待される。				

## 8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—防災面から見たアンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区を通じた保存活用の現代的課題の検討とその確認—」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries – Current Issues of Conservation and Restoration Activities and its’ Disaster Prevention in World Heritage Site Angkor and Siem Reap Historical District- “
開催期間	平成27年8月12日 ~ 平成27年8月15日 (4日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) カンボジア、シェムリアップ、ユネスコ・JASA シェムリアップ事務所 (バイヨン・インフォメーション・センター)
	(英文) Cambodia, Siem Reap, UNESCO/JASA Siem Reap Office (Bayon Information Center)
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授
	(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) SO Sokuntheary・Norton University・Professor

### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (カンボジア)	
	A.	B.
日本 <人/人日>	A.	3/ 18
	B.	10
カンボジア <人/人日>	A.	4/ 16
	B.	10
ベトナム <人/人日>	A.	1/ 6
	B.	0
ラオス <人/人日>	A.	1/ 6
	B.	0
タイ <人/人日>	A.	1/ 6
	B.	0
ミャンマー <人/人日>	A.	1/ 6
	B.	0
合計 <人/人日>	A.	11/ 58
	B.	20

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)  
 B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの調査研究成果の再確認。</li> <li>・カンボジアにおける文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。</li> <li>・保存活用のための学術研究上の課題の現状。</li> <li>・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。</li> <li>・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。</li> <li>・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区の防災対策の基礎的課題の検討</li> </ul> <p>以上の各点を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																													
<p>期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアにおける文化遺産の歴史的・基礎的学術研究上の現状と問題点の明確化。</li> <li>・カンボジアにおける研究体制及び参加国間の相互協力のさらなる強化と発展。</li> <li>・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区における防災対策の基本的方針確立。</li> <li>・ハザードマップ作成へ向けた基本情報の集約。</li> <li>・以上の課題解決のための協力体制と方法の可能性の明確化。</li> </ul>																													
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるノートン大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および理工学術院建築学科中川武研究室がその緊密な協力のもとに担当する。</p>																													
<p>開催経費 分担内容</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">日本側</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">内容</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td style="text-align: right;">400,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">50,000 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">300,000 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">220,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">76,000 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><b>合計</b></td> <td style="text-align: right;"><b>1,546,000 円</b></td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: center;">(カンボジア) 側</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	日本側			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">内容</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td style="text-align: right;">400,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">50,000 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">300,000 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">220,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">76,000 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><b>合計</b></td> <td style="text-align: right;"><b>1,546,000 円</b></td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	外国旅費（日本側）	400,000 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	500,000 円	謝金	50,000 円	備品・消耗品購入費	300,000 円	その他経費	220,000 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	76,000 円	<b>合計</b>	<b>1,546,000 円</b>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: center;">(カンボジア) 側</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	(カンボジア) 側			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費
日本側																														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">内容</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国旅費（日本側）</td> <td style="text-align: right;">400,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">50,000 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">300,000 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">220,000 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">76,000 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><b>合計</b></td> <td style="text-align: right;"><b>1,546,000 円</b></td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	外国旅費（日本側）	400,000 円	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	500,000 円	謝金	50,000 円	備品・消耗品購入費	300,000 円	その他経費	220,000 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	76,000 円	<b>合計</b>	<b>1,546,000 円</b>													
内容	金額																													
外国旅費（日本側）	400,000 円																													
外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	500,000 円																													
謝金	50,000 円																													
備品・消耗品購入費	300,000 円																													
その他経費	220,000 円																													
外国旅費・謝金等に係る消費税	76,000 円																													
<b>合計</b>	<b>1,546,000 円</b>																													
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%; text-align: center;">(カンボジア) 側</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	(カンボジア) 側			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費																						
(カンボジア) 側																														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場提供</td> </tr> <tr> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場提供	カンボジア国内研究者旅費																										
内容																														
セミナー会場提供																														
カンボジア国内研究者旅費																														

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ作成と防災対策へ向けた課題と展望—」  (英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries –Hazard Map and Issues on Disaster Prevention in World Heritage Site Angkor and Siem Reap Historical District- “
開催期間	平成27年12月26日 ~ 平成27年12月29日 (4日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) カンボジア、シェムリアップ、ユネスコ・JASA シェムリアップ事務所 (バイヨン・インフォメーション・センター)  (英文) Cambodia, Siem Reap, UNESCO/JASA Siem Reap Office (Bayon Information Center)
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授  (英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) SO Sokuntheary・Norton University・Professor

#### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (カンボジア)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	4/ 24
	B.	10
カンボジア 〈人/人日〉	A.	5/ 20
	B.	10
ベトナム 〈人/人日〉	A.	1/ 6
	B.	0
ラオス 〈人/人日〉	A.	1/ 6
	B.	0
タイ 〈人/人日〉	A.	1/ 6
	B.	0
ミャンマー 〈人/人日〉	A.	1/ 6
	B.	0
合計 〈人/人日〉	A.	13/ 68
	B.	20

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)  
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)



※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアにおける文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。</li> <li>・保存活用のための学術研究上の課題の現状。</li> <li>・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。</li> <li>・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。</li> <li>・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ作成。</li> <li>・同エリアの防災対策へ向けた実践的課題の検討。</li> </ul> <p>以上の各点を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																																							
<p>期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジアにおける文化遺産の歴史的・基礎的学術研究上の現状と問題点の明確化。</li> <li>・カンボジアにおける研究体制及び参加国間の相互協力のさらなる強化と発展。</li> <li>・防災対策を踏まえた観光、開発、保存の調和手法の検討と他地域への適応可能性の確立。</li> <li>・世界遺産アンコール遺跡とシェムリアップ歴史地区のハザードマップ。</li> <li>・以上の課題解決のための協力体制と方法の可能性の明確化。</li> </ul>																																							
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるノートン大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および理工学術院建築学科中川武研究室がその緊密な協力のもとに担当する。</p>																																							
<p>開催経費 分担内容</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">日本側</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><b>内容</b></td> <td style="text-align: center;"><b>金額</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国旅費（日本側）</td> <td style="text-align: right;">600,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">50,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">500,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">220,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">92,000 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;"><b>合計</b></td> <td style="text-align: right;"><b>1,962,000 円</b></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(カンボジア) 側</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><b>内容</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>セミナー会場提供</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>カンボジア国内研究者旅費</td> <td></td> </tr> </table>	日本側				<b>内容</b>	<b>金額</b>		外国旅費（日本側）	600,000 円		外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	500,000 円		謝金	50,000 円		備品・消耗品購入費	500,000 円		その他経費	220,000 円		外国旅費・謝金等に係る消費税	92,000 円		<b>合計</b>	<b>1,962,000 円</b>	(カンボジア) 側				<b>内容</b>			セミナー会場提供			カンボジア国内研究者旅費	
日本側																																								
	<b>内容</b>	<b>金額</b>																																						
	外国旅費（日本側）	600,000 円																																						
	外国旅費（日本以外かつカンボジア除く）	500,000 円																																						
	謝金	50,000 円																																						
	備品・消耗品購入費	500,000 円																																						
	その他経費	220,000 円																																						
	外国旅費・謝金等に係る消費税	92,000 円																																						
	<b>合計</b>	<b>1,962,000 円</b>																																						
(カンボジア) 側																																								
	<b>内容</b>																																							
	セミナー会場提供																																							
	カンボジア国内研究者旅費																																							

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成 27 年度は、本事業費では実施しない。

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

該当なし

## 9. 平成27年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人/人日〉	カンボジア 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	ラオス 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	ミャンマー 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		5/30 ( 20/120 )	( 2/14 )	1/7 ( )	2/8 ( )	1/7 ( 1/14 )	9/52 ( 23/148 )
カンボジア 〈人/人日〉	( )		( )	( )	( )	( )	0/0 ( 0/0 )
ベトナム 〈人/人日〉	( )	1/6 ( 1/6 )		( )	( )	( )	1/6 ( 1/6 )
ラオス 〈人/人日〉	( )	1/6 ( 1/6 )	( )		( )	( )	1/6 ( 1/6 )
タイ 〈人/人日〉	( )	1/6 ( 1/6 )	( )	( )		( )	1/6 ( 1/6 )
ミャンマー 〈人/人日〉	( )	1/6 ( 1/6 )	( )	( )	( )		1/6 ( 1/6 )
合計 〈人/人日〉	0/0 ( 0/0 )	9/54 ( 24/144 )	0/0 ( 2/14 )	1/7 ( 0/0 )	2/8 ( 0/0 )	1/7 ( 1/14 )	13/76 ( 27/172 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

### 9-2 国内での交流計画

6/12 〈人/人日〉
-------------

10. 平成27年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	250,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,100,000	
	謝金	150,000	
	備品・消耗品 購入費	1,800,000	
	その他の経費	840,000	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	260,000	
	計	6,400,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		640,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		7,040,000	